

## 「海岸保安林の整備ボランティア」に参加しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構  
森林整備センター 新潟水源林整備事務所

「新しい潟」と書いて「新潟」。かつて越後平野には多数の湖沼<sup>こしょう</sup>が点在し、今でも鳥屋野潟<sup>とやのがた</sup>や福島潟など大きな湖沼が残されています。これらは信濃川と阿賀野川、そして砂丘の活動によって生み出されたものです。

「砂丘」と聞いて、まず皆さんが思い浮かべるは有名な鳥取砂丘ですが、実は砂丘は全国各地にあります。ここ、新潟砂丘は県北部の村上市から新潟市西部にかけて長さ約70キロ、10列もの砂丘が列状に並ぶ長大な砂丘群です。新潟市はこの砂丘の南東部に位置しているため、北西の風が吹けば砂吹雪が起きて畑や家屋が砂で埋まるという被害に遭ってきました。

そこで江戸時代後期、当時の新潟奉行が海岸の木を切ることを禁止するとともに約3万本のマツ苗を植栽、海岸砂防林を完成させました。また、明治時代に入っても新潟市内の小学生が1万本のマツ苗を植えています。

砂の上につくられた街、新潟市に住む人々の暮らしを飛砂<sup>ひさ</sup>から守る海岸砂防林。今では保安林として新潟県や新潟市により管理されています。

### 一新潟市西区保安林整備ボランティア

海岸砂防林を維持していくためには手入れが必要です。そのため行政だけでなく、多くの地域住民が整備にたずさわり、現在では10もの団体がボランティアとして新潟市に登録し、活動を行っています。

『公益社団法人にいがた「緑」の百年物語緑化推進委員会』はそのボランティア団体の1つで、平成18年に「にいがた海の森の集い」で整備（ヤマボウシ、エノキ、クロマツなどの記念植樹とマツ林の除伐）された「にこにこの森」において、美しい森アシストとして年2回、保安林整備ボランティア活動を主催しています。

保安林整備の業務にたずさわる私たち新潟水源林整備事務所は、ボランティアとして平成23年からこの活動に参加し、地域の皆さまとともに汗を流しています。

#### ●平成29年 6月24日（土）

当日は、新潟水源林整備事務所の職員全員で参加しました。今回の参加メンバーは、同じ海岸保安林整備ボランティア団体である「松海の森」をはじめとする地域ボランティアの皆さまのほか、プロバスケットボールチームである新潟アルビレックスBBの選手2名とサポーター計34名が初参加。総勢55名の賑やかな集まりとなりました。

今日の作業は下草刈りです。ミーティングを終え、私たちは用意された手鎌を手に、各自思い思いの場所で作業を開始しました。作業前、刈り取る草はまだ若葉なので刈り払いは楽だろうと思っ

ていました。しかし、エノコログサなど昨年の枯葉が混在しているイネ科植物が多く、堅くて想像以上に大変でした。そして、この日の気温は26度で薄曇り。いかにも梅雨入り前といった気候で蒸し暑く、熱中症に要注意の天気でした。各自500ml入りのペットボトルを3本程度用意していたのですが、作業が終わる頃にはすっかりカラになっていました。

●平成29年 9月23日（土）

当日は事務所職員のうち、2名が参加しました。直前の18日には台風18号が新潟県内を通過。そのため作業する場には折れた枝が無数に散乱していました。私たち手鎌担当は、「松海の森」の皆さまをはじめとする高性能機械（刈払機）の作業の支障にならないよう、これらを片付けながらの作業です。また、今日のメニューは下草刈りに加え、林内の風通しを良くするための枝打と<sup>かんぼく</sup>灌木の除伐です。

今回の参加者は約40名でした。江戸時代より続く海岸砂防林の手入れを通じて地域の歴史と先達の苦労を学び、受け継いだ財産を未来へとつないでいくため、新潟水源林整備事務所はこのような活動へ積極的に参加し、貢献していきたいと思えます。



下草の刈り払い（6月）



整備されたマツ林（9月）